

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	(ア) 知的		各 3 × 4
		(イ) 障壁		
		(ウ) 社会生活		
		(エ) 制度		
	2	身体障害者福祉法		4
3	1級から3級まで		4	
4	ウ		4	
5	行動援護	自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行うこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2
	同行援護	視覚障害により、移動に著しい困難を有する人に、移動に必要な情報の提供(代筆・代読を含む)、移動の援護等の外出支援を行うこと。		
2	1	① 自立		各 3 × 10
		② 基本的人権		
		③ 専門的		
		④ プライバシー		
		⑤ 総合的		
		⑥ 連携		
		⑦ ニーズ		
		⑧ 地域福祉		
		⑨ 後継者		
		⑩ 安心		
2	2	(ア) 食事、着替え、排泄、入浴、整容などの身の回り動作や、寝返り、起き上がり、歩行などの移動動作といった日常生活動作。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3
		(イ) 料理、家事、外出、服薬の管理、金銭の管理、電話の使い方などの手段的日常生活動作。		
		(ウ) 物質的、身体的生活環境面からだけでなく、自己実現、満足感といった心理的な充足など主観的な面を考慮した生活の質。		
3	3	図1 避難場所		各 4 × 2
		図2 避難所		
3	1	① 遂行機能障害	実行機能障害 もよい。	各 4 × 4
		② 半側空間無視	左半側空間無視 もよい。	
		③ 社会的行動障害		
		④ 注意障害		

32

50

28

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・Cさんは自分で計画を立てて実行することができないため、日課の流れに沿って生活できるよう、その都度声かけ、誘導、確認などを行う。 ・Cさんは左側にある物や人に気付きにくい状態であるため、話しかけるときは右側に立ち、気づかない場合は体に触れて注意を促す。 ・Cさんは行動や感情をうまくコントロールすることができないため、怒り出したら他の話題に変えたり場面を変えたりする。 ・Cさんは注意を持続することが難しいため、騒音を減らしたり、関係のない物を視野から除いたり等、注意を持続し集中できるような環境をつくる。 		3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3	
4	1	身体的苦痛		順序は問わない。 霊的苦痛は、スピリチュアル苦痛 もよい。	各 4 × 4	3 2
		社会的苦痛				
		精神的苦痛				
		霊的苦痛				
	2	①	否認	否認と隔離、否認と孤独、否認と孤立 もよい。	各 4 × 4	
		②	怒り			
③		抑うつ				
④		受容				
5	サービス利用者	事例	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつを装着している利用者 ・ベッド上での排泄 	それぞれ1つ書かれていればよい。 事例と理由が対応しているものだけを正答とする。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	各 8 × 2	1 6
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄は人の尊厳に深くかかわることを認識させたい。 ・羞恥心や気兼ねなど人の尊厳に関わる部分であることを気付かせたい。 ・利用者の排泄リズムやパターンを把握し、待たせることなく支援することにつなげていきたい。 			
	居室での排泄環境	事例	<ul style="list-style-type: none"> ・多床室、カーテンなし、排尿の音やにおいを感じさせる場面 ・介護者の不適切発言 			
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・肌の露出を避けたり、カーテンやスクリーンなどを利用したりすることに気付かせたい。 ・音や臭いに配慮するためにどのような工夫が必要かを考えさせたい。 ・介護者が発する言葉や態度等について考えさせたい。 			

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点	
6	1	ピアジェ	子どもの感覚運動から、思考・認知の発達について4段階にまとめている。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2	35
		エリクソン	発達概念を生涯発達へと拡張し、社会的・対人関係の視点から心理・社会的側面の発達を8段階にまとめている。			
	2	①	相手の属性を自分のものとして取り込む。	①・④は、内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。 投射は、投影 もよい。	各 3 × 5	
		②	合理化			
		③	投射			
		④	心の奥底にある思いとはまったく異なる言動に出る。			
		⑤	昇華			
	3	(ア)	老化に抵抗する意味をもち、老化の原因を抑制することで健康長寿を目指そうとする考え方。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3	
		(イ)	その人の年齢にふさわしい人生の質を高めるために、健康、社会参加、安全に関するチャンスを最大限に利用するプロセス。			
		(ウ)	老化にうまく適応した幸せな生き方。			
7		生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けることを意味している。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		7	